

UNIVERSITY CONSORTIUM Kyoto



財団 大学コンソーシアム 京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>

会 報
2007.7
No.28

P1~2 学びの座談会

「学び」と世代の間にあるものは？

P3~5 がんばっています京都の大学・短期大学

大学のまち京都の魅力を
連携の力でより強固なものへ

P6~8 TOPICS

PROJECT REPORT

P9~10 京都学術共同研究機構

季刊アカデミア

P11 Information

近日開催予定の行事・イベント



【京都短期大学】京都府福知山市西小谷ヶ丘3370

特集

学びの座談会

「学び」と世代の間にあるものは？



本年度の会報の特集は、昨年に引き続いて「学び」をキーワードにお送りいたします。

この特集では、現在の少子化の世代、第2次ベビーブームの世代、そして団塊の世代(第1次ベビーブーム)を対象に、それぞれのジェネレーションギャップを、学びに対する考え方、捉え方で表現して行きます。

各世代の代表として、若年層の10、20代の高校生と大学生、第2次ベビーブームの世代として、ミドル層の30、40代のご夫婦、そして最後に、現在の社会基盤を構築した50、60代の団塊世代のご夫婦に、段階的にインタビューをしていきます。

今号は、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔氏をインタビューアとしてお迎えして、2007年4月に開校した京都産業大学附属中学・高等学校の新高校1年生のお二人に、「学び」に対する率直な意見を聞き出して頂きました。

なぜ学ぶと思うか？

川中氏：本日は少しの間、「学び」というテーマについて考えてみたいと思います。宜しくお願いたします。高校生のお二人が「学ぶ」ということについて、どのように思い感じているか伺っていきます。今、自分が最も輝いていると思えるときはどんな時ですか？高校生活の中で充実しているなと感じる瞬間はどんな時ですか？

真田：そうですね、新しい友達といろいろ話をしたり、大学に行って体育の授業を受けたりするときです。京都産業大学はとても広く大きく行くのがとても楽しみで



真田 美紀さん

西川：僕は友達と話をしている、何気ないことで笑ったりしている時が一番楽しいです。

川中氏：内容は、どのような事ですか？

西川：スポーツの事とか。そう、僕は一年生で知り合って間もないのでお互いのこととかです。

川中氏：ありがとうございます。それでは本題に入っていきます

川中氏：いきなりですが、お二人はなぜ学ぶのだろう?と思われるか。私自身は、中学高校時代と「なぜこのようなことを学ぶのだろうか?」と疑問に思うことが多かったのですが。

真田：難しいですね!

いつか、もしかしたら役立つ時が来るのかもしれないからかなあ!?

西川：僕は将来苦しい時がきても、学生の時よりはましだと思えるから。

川中氏：おもしろい意見ですね。勉強という行為を通じて忍耐することを学習しているということですね。お二人のコメントは、学ぶことがいつか役に立つと思われるということは共通していますね。今日は、そうした「未来につながっていく学び」ということを一つのキー

ードに、なぜ学ぶのか?という少し難しいことを考えていきます。

学ぼう!と思う時は?

川中氏：そもそも勉強は好きですか？

真田：好きじゃないですね。

西川：嫌いです!

川中氏：勉強することは嫌なことだということですが、お二人は今まで学校で色々なことを学んできて全てを忘れ去ってしまっているのでしょうか。あるいは、何か心に残ったこと、頭の中に残っていることはないでしょうか。

真田：わたしは、小学校の時に先生が厳しくて、忘れ物をしたら漢字を1ページ書かされました。それで毎日忘れ物をしないよう必死で頑張ったのを覚えています。それが意外と楽しかったです。本は大好きで、最近読んだ本の中で気に入っているのは、「ハッピーバースデー」という本です。家族のなかで、自分の存在を認めてもらえず辛い日々を過ごしている女の子のお話です。わたしが感動したのは、主人公の女の子を嫌っているお母さんが、その主人公の誕生日会に手作りでケーキを焼いてきてくれるシーンです。

西川：僕は小学六年生のときに陸上部に入っていて、厳しい先生で、がむしゃらにクラブをしました。それが、とても心に残っています。

川中氏：今、がむしゃらになっていることはありますか。

西川：そうですね私は今、一生懸命学校に通っています(笑)。

川中氏：学校に通う事に、がむしゃらなのですか？

西川：休みたくないからです。学校は友達もいて楽しく、また、



西川 洋平君

授業は化学がおもしろいのです。

特に、今習っているイオンが好きです。

川中氏：眞田さんに化学の魅力を話してあげてください

西 川：化学反応式のイオンの数がびったりあって答えがわかるとすっきりします。何かわからないものが解けるとすっきりして気持ちがいいです。

川中氏：それでは、クラブでも勉強でも、その他のことでも結構ですが、「何かを知りたい!」「何かを学ぼう!」と思われたことは今までにありますか?

西 川：僕は、たとえばテストが返ってきて自信があったの間違いだったとすると、どうして間違ったのか、どこがおかしかったのか、こういう時にとにかく知りたいと思います。

川中氏：やはり「もやもやしたもの」をすっきりさせたいですね。

眞 田：中学生のとき陸上部に入っていました。毎日同じように練習をしていましたが、友達はともフォームがきれいで、それに比べるとわたしはめっちゃめちゃ汚くて、どうしたらもっときれいなフォームになるのか、どこを変えればうまくいくのか、知りたくなり陸上の雑誌などで研究しました。

川中氏：その努力でタイムやフォームは向上しましたか?

眞 田：はい、少しだけですが、タイムは一秒縮まりました。

川中氏：それはよかったですね 陸上競技で一秒は大きいですね!

眞 田：また、今は地域のクラブで乗馬をしています。そのときもコーチにフォームや馬の扱いについて注意されると、「なんであかんのやる」と意欲がわいて来ます。乗馬についての本を読んで研究しています。

川中氏：そのように学んだことがすく活かせる場というのは大事ですね。



学びは将来にどうつながるか?

川中氏：みなさんはまだ高校一年生ですが、大学には進学したいですか?

西 川：僕は自分の将来へのビジョンのなかで大学を通過しないと目標を達成できないので行きたい。僕は理系教科が好きで、医師か薬剤師を目指しています。中学3年生のとき怪我をして病院に行ったのですが、どういわけか血が止まらなくなり痛みもひどくなりました。その時、僕は将来医者になって自分で治そうと思ったのです。また、薬剤師になって新薬の開発をしたいとも思っています。その新薬で誰かが喜んでくれたらうれしいなと。

川中氏：明確な目標があるのですね。努力を重ねて自分の将来の希望に向かって進んで欲しいなと思います。お二人は将来のために勉強しようという姿勢がありますが、ある調査で、将来のために勉強しようという学生が減っていると報告されていました。なぜだと思われますか?

西 川：スポーツとか娯楽とか、他に楽しいことが増えていると思います。

眞 田：自分じゃない他の人が働いて、自分はちょっとしたアルバイトが何かをして生きていけるだけのお金をかせいで日々を過ごせたらいい、大きな責任のある仕事は人任せで、自分は楽しようと思っています。

川中氏：お二人もそのように思われますか。勉強が嫌いと言っていたが、では明日から一切勉強しなくてもいい、となったらどのように思われますか。

眞 田：それは寂しいです。いままで勉強してきた、急にしなくてもよくなったら、何をしたいかわからなくなってしまいます。また、本当に知っておくべき常識の範囲だけでも身につけておかないと不安になります。

西 川：朝、学校に来て授業もなく先生もいなく、勉強しなくてもよいということになったらうれしいですが、かえって不安になりますね。何も知らないまま社会に出たくない、ある程度の知識を得てから社会に出

たいです。

川中氏：そういう「大人」が身につけるべき知識や学力のことを「教養」といいます。これからの勉強の中で教科書の内容だけではなく様々なことを、身につけられることを願っています。

仕事は面白い?

川中氏：ここまで私が質問してきましたが、お二人から質問はありますか。

眞 田：仕事は面白いですか。私は何の仕事に就こうか興味があります。

川中氏：難しい質問ですね(笑)。どうして仕事に関心があるのですか?

眞 田：ずーっと勉強しているのではなく、何か仕事をしたいのです。

西 川：僕は早く収入を得て、欲しいものを自分で買えるようになりたいです。

川中氏：ありがとうございます。

今、私は全国のNPOやボランティア団体に対して、運営上のアドバイスをを行う仕事をしています。困っている組織にいいアドバイスができたときに返ってくる反応が嬉しく感じます。私が生きていて、ここに来てアドバイスすることで、その組織にいる方々が変わっていく。そのように生きている手応えを感じられる時は仕事は面白いです。

仕事になっているということは、これは誰かの役に立って、ありがとう!という声を発してもらえているということです。ぜひ仕事を考える時は、誰のどのような役に立つか、考えて欲しいなと思います。



学びたいことを学ぼう!

川中氏：今回は、「学び」というテーマでお話をしてきました。今はあまり面白く感じられないという「学び」ですが、これから好きになっていきたいですか。

眞 田：できればなりたいですね!

西 川：なりたいです!

川中氏：そのためには、学校で教えてくれることに関係なく、先ほど話にあった「仕事は面白いの?」といった自分の中から出てくる問いを大切にしてください。高校生の頃は「学ばないといけないこと」から「自分がこれから学びたいこと」を見つけ出していく時期でしょう。自分のアンテナをしっかりとって、興味がわいたこと、疑問に思ったことについては、とことん調べると良いでしょう。「もやもやしたもの」を「まあいいや」と放置せず、納得いくまでぶつかすることで、学ぶことの面白さに出会えると思います。本日はありがとうございます。



川中 大輔 (シチズンシップ共育企画代表)

1980年生まれ。ファシリテーター。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了。野外教育や不登校児童支援に取り組むNPO法人プレーンヒューマニティー副理事長、社会事業家支援に取り組むIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]フェロー、(財)大学コンソーシアム京都研究主幹などを経て、(財)大学コンソーシアム京都リエンゾオフィスアドバイザー。「学ぶこと」と「社会にかかわること」の両方のおもしろさがわかる「学びのデザイン」に関心を寄せている。2001年から全国各地でNPOマネジメント研修や市民教育ワークショップ、教育ファシリテーター育成を担当。大阪経済大学 大学院兼任講師、大阪成蹊大学芸術学部非常勤講師ほか。

大学のまち京都の魅力を 連携の力でより強固なものへ

大学コンソーシアム京都は、その前身である「京都・大学センター」の設立以降13年間の活動の中で、教育事業、高大連携事業、リエゾン活動や高等教育研究事業等の多様な取り組みを推進し、「大学のまち京都」の新しい魅力を創造してきました。多様な建学の精神と特色をもつ50の大学・短期大学の存在が京都のまちの魅力を形成していますが、それらの大学の連携がより一層の魅力を創造しているともいえます。知識基盤社会、グローバル社会といわれる今の時代において、個々の大学・短期大学が特色ある改革を推進していくとともに、大学間連携、産官学地域連携の取り組みを進め、「大学のまち京都」の魅力を高め、新たな学術文化都市を創造していくことが求められています。

今回、大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学で新たに就任された7名の学長から、就任の抱負と大学のまち京都、大学コンソーシアム京都へのメッセージをいただきました。



「『こころの教育』に邁進」

前学長の任期満了に伴い、全く図らずも学長職を拝命することになりました。本学とご縁のなかった私が重職をお引き受けする決心をしたのは、阿部敏行現理事長の「これからの大学運営は、建学の精神である仏教精神を表に出してゆきたい」との言に共感を覚えたからにほかなりません。

現今の日本の社会状況を見るに社会秩序の基盤となるべき倫理・道徳の退廃を嘆かざるをえません。これも偏に戦後の教育が、宗教的情操を育む「こころの教育」への配慮を欠いてきた結果以外のなにものでもないと思えます。ありがたいことに、本学の創設者、故大谷智子裏方は、建学の精神として校訓に「真実心」を掲げられました。「真実心」は、親鸞聖人の「教行信証」（信巻）に引用される『涅槃経』、『浄土文類聚鈔』の文言に由来すると推測されますが、それは、「慈悲の心」と同義であることが文献の上で確認されます。「慈悲の心」は、他人の苦しみ痛みを我が物として受け止め、その苦を

除き樂を共有する自利利他の精神であり、思いやりの心であります。この「慈悲の心」は、私自身が他者との関係性の中にしか存在しえない、との自覚から生まれるものでしょう。この「慈悲の心」が慈雨となって一人一人の心に染み入り、対立抗争に明け暮れる現代人のずさんだ心の解毒剤となることを念じてやみません。

本学は、かかる真実心=慈悲のこころが身につく「こころの教育」と社会へ貢献する「実学教育」を、その教育内容とし、本学の特色としたいと思えます。本学は、教職員一同が慈悲の心を持って、慈悲の心が身につく女子学生の教育を目指します。「慈悲の心」が身につけば、少なくとも、正しい日本語を話し、きちんとした挨拶のできる礼儀正しい人間、思いやりゆたかな人間の誕生が期待でき、それが現在の社会から期待される学生像であろうと愚考し、「こころの教育」に邁進する所存であります。



京都光華女子大学・
短期大学部
学長

いちごう まさみち
一郷 正道

「大学コンソーシアム京都に期待するもの」



立命館大学
学長
かわぐち きよ ふみ
川口 清史

18歳人口が減少し、「大学生生き残り」が社会問題になっています。確かに、定員未充足の大学が生まれ、経営危機が表面化している問題は生じています。しかし私は現在の大学の危機は決して18歳人口の総数が少ないことにあるのではなく、社会の変化に対応した新しい人材養成、教育のシステムが十分に伴っていないところにあると考えています。日本の高等教育進学率はOECDの中でも決して高いわけではなく、GDPに占める高等教育支出の比率は半分以下でしかありません。今やらなければならないことは、現代の社会が求めている教育内容、教育システムを創り出し、改革していくことと、それを可能にする財政をきちんと保障していくことなのです。

そこで必要なことは大学相互の間での「生き残り競争」ではなく「改革のための連携」です。さらに言えば、改革のための連携ができない大学が生き残ることは困難である、ということでしょう。その意味で、大学コンソー

シアム京都が果たさなければならない役割はきわめて重要だといえます。

私は昨年まで政策科学部長として京都にある5大学の政策系学部・研究科の連携に参加してきました。同志社、京都橘、佛教、龍谷そして本学の政策系学部・研究科は2005年以来共同して研究発表大会を京都府・市の協賛を得て開き、その成果を「都市政策研究」というジャーナルを発刊して発表、また京都市からの委託研究プロジェクトを共同で発足するといった連携を進めてきました。単位互換や授業の共同開講といった教育連携に関して大学コンソーシアム京都は全国のモデルになるような成果を上げてきています。これをさらに大学院、研究面での連携へと進めていく必要があるでしょう。これは関連分野の共同で進めていくことが不可欠であり、大学コンソーシアム京都が大学レベルでの共同に加えて、学部・研究科レベルでの連携へと一歩進んでいくことを期待しています。

「大学コンソーシアム京都の発展を期待する」



聖母女学院短期大学
学長
コリンズ・ダニエル

4月に私は東京から関西に参りましたが、こちらに来る前に関西と京都の評判が耳に入りました。京都は日本の大学の中心と何回も聞きましたが、実際にそうであるかどうかという疑問を頭の中に抱きました。40年前に神戸のある高等学校で教える経験があったのですが、その時からずっと関東の教育しか知りませんでした。長年にわたって、評判というものが大袈裟に過ぎないのではないかと思っていましたが、実際にこちらに来ますと、そういう評判は単なる作り話ではないと確認できました。京都のたくさんの大学を見ながら、確かに京都は日本の大学の中心だと分かりました。

しかし大学の数や学生数の多さで、そういう評判が得られたとは思いません。その表面的な基準で判断するのが甘えと分かりましたので、もっと具体的な基準を持って判断すべきだと考えました。そして聖母女学院短期大学の学生用の掲示板の前に立って、初めて大学コンソーシアム京都という財団法人に気が付きました。

もう少し調べた結果、こういう団体は自分の組織のためではなくて、むしろ団体のメンバーである、ひとつひとつの大学のために創立された組織だと分かりました。私の経験から、多くの組織は自己中心的なものになる危険性があるような気がしていましたので、大学コンソーシアム京都のような組織は滅多にないと思い、詳しく調べようと決心しました。そしてたくさんの組織が形だけではなく、中身も提供しているということに気が付きました。

各大学にはそれぞれの規模があり、自校の限界を認めながら、自校の性質に合っている活動をした望みがありますが、限られている設備のために、そういう理想を実現しにくい場合があると認めなければなりません。

大学コンソーシアム京都は、場を提供していただき、各大学は自由にその場を使えるという概念で始まったようです。これは有り難いことです。心から感謝します。

今後ますますの発展を期待してやみません。

「国際的視野の涵養と深い京都文化の理解をめざす」



京都市立芸術大学
学長
しおえ こうぞう
潮江 宏三

この四月に京都市立芸術大学長に就任いたしました。本学は、東京遷都後の京都に、文化の空白を憂えた画家たちの要望に応じて設置されたわが国最古の美術学校に端を発します。戦後まもなくの新生の機運のなかで誕生した音楽短大と一つになって、芸術大学になってからもうすぐ四十年が経とうとしています。京都市立芸術大学が、これまで京都の芸術文化、関西のそれ、そして日本、さらには世界の芸術文化に果たしてきた役割を思うと、いまさらながらに学長としての責任の重さをひしひしと感じております。

このように、歴史と伝統のある古い大学であり、しかも数々の芸術家や音楽家を輩出してきた学校ではありますが、その規模は、大学院生、学部生の全学生を合わせても千人程度の小規模なものです。それに百人ほどの常勤教員とその三倍ほどの非常勤教員が将来の芸術文化や音楽文化を担う学生たちの育成に取り組んでおります。本学の特徴は、その小規模大学の利点を活かして、濃密な教育研究の指導がなされているところにあります。芸術教育はそれぞれの専門分野で個人の能力を引き出す、という側面が強いものです。少人数の学生に対して緻密な指導をおこなっていることが、学生個々の才能を尊重した、目配りのきいた教

育の場を提供できていることに繋がっているのではないかと思っております。

その一方で、芸術は常に想像力に支えられているものでありますから、知育をおろそかにし、専門技能の習得ばかりに走ることは戒めなければなりません。本学は、知が想像力を豊かにするという立場から、美術学部も音楽学部も、幅広い教養、国際的な視野、伝統文化への理解といったことを重視してきました。このために、組織的にも、教養教育、専門知識教育の体制を整備確立してきました。それでもなお、現代社会の急激な変化、あるいは学生の関心の多様さ等に応えるには、ことに教養教育の分野はその幅の広がりにおいてはかならずしも十分とはいえず、大学コンソーシアム京都において提供されます科目が、現在、大きな意味を持ってきております。逆に、本学からは、美術と音楽に関する専門知識教育に特化した講義を提供してゆくことで他の大学の学生の知的欲求にある程度お応えできているのではないかと思っております。

今後とも、大学コンソーシアム京都に参加する諸大学のご努力で、「学び」の街京都が、学生の学習意欲をしっかりサポートしていけることを願っております。京都市立芸術大学もそれに向けて労を惜しまぬつもりです。

「大学の街京都の発展」



京都造形芸術大学
学長

せんじゅ ひろし
千住 博

撮影:山口 和也

40歳代の現役の画家が、学長として学生を引っ張ってゆく、このケースはどこにでもあるスタイル、という訳ではありません。マラソンに例えるなら、学生はランナーです。そして一般的な大学においては、指導者は監督でありコーチです。沿道から声をかけ、正しい方向に導こうとします。しかし本学は、学長もランナーなのです。それも、常に学生達の先頭を走り続けるペースメーカーとしてのランナーなのです。とにかくついて来い、と後ろを振り返りつつ全力で走り続ける姿、それこそが本学の学長の姿です。

これには周囲の深い理解と協力が不可欠です。副学長、学科長たちをはじめとした教官、そして理事、事務方一枚岩の結束がなければ、無理です。私自身のアトリエは世界への発信基地としてのニューヨークにあります。年の200日はニューヨークのアトリエで、早朝から深夜まで制作をして過しています。しかしここはインターネットで常に大学と接続されています。各教授や学生との個別のやりとりも頻繁です。21世紀の高度情報社会だからこそ可能になった一つの形、とも言えるのです。私はニューヨークで見た最新、そして最も質の高い

芸術を、次の日の京都の授業で伝えていきます。優秀な学生はニューヨークの一流画廊に紹介します。これは私が、ニューヨークと京都を、年に何度も往復していればこそできることです。

このような革新的な新しい教育の姿を可能にした一つの要因は、京都という街にあります。長く様々な文化が集まり、爛熟して、それ故教育の街、大学の街としても大きな存在の京都。何かを学ぶには最善の街です。一方文化の革新は全て京都から起こっている、と考えても良いほど、京都は新しいものにあふれた街でありつづけてきました。芸術の発信基地ニューヨークに軸を置きつつ、その京都で芸術教育にかかわることは、京都ならではの新しい大学教育の形なのです。

私はプロ野球でいえば監督兼捕手ともいうべき学長の姿で、情熱あふれる若い学生たちを引っ張ってゆきます。更に本学は、通信教育を最大事業の一つと位置付け、場所、年齢を問わない生涯学習の先進的モデルケースとすべく展開を続ける所存です。創立30周年を迎えたばかりの新しい大学だからこそ可能な新しい姿がここにはあります。

「大学コンソーシアム京都に対する期待」



同志社女子大学
学長

ニコラス・ジョンティール

同志社女子大学は1876年、ここ京都の地に誕生し、今年で131年を迎えます。京都御苑内のデヴィス宅(旧柳原前光邸)で、女性宣教師A.J.スタークウェザーが新島襄の妻、八重と女子塾を開いたのが始まりです。その1年前に同志社英学校(現:同志社大学)を創設した新島襄は、1世紀以上も前に、女子教育の意義と重要性を説いています。この伝統を維持し、新島の願いでもある「いつの時代にも通用する専門性と技能を身につけた品性のある女性の育成」を使命とし、その実現にむけて学長としての責務を全うしていきたいと思っています。

本学が大学コンソーシアム京都に加盟してから、約10年が経ちます。その間、大学の枠を超えて幅広い領域にアプローチできる単位互換事業やインターンシップ事業は、本学学生が毎年多数参加し、本学の教育理念であるリベラル・アーツ教育を充実・発展させている

と考えています。また、教職員も含めて、大学間の交流、産官学地域連携、国際交流、高大連携などの事業に参加し、互いに理解を深める事で、新たな絆が生まれています。これからも、これまで取り組んできた各種事業をますます発展させ、時代のニーズに即した新たな取り組みを展開することを期待しています。そして、大学コンソーシアム京都の存在・活動をもっと多くの人達に知ってもらい、学生や社会人が自発的・自主的に学べる場を、研究者が研究成果を発表・講演できる場を多く提供し、京都の活性化・世界への情報発信につながることを願っています。

I am gratified at and impressed by the success and development of the Consortium of Universities in Kyoto and look forward to its continued expansion in keeping with the changes in the needs of society.

「大学コンソーシアム京都に対する期待」



龍谷大学・短期大学部
学長

わかばら どうしょう
若原 道昭

私は神子上前学長の後を受けて、本年度より、360有余年の長い歴史と伝統を有する龍谷大学の学長の重責を担わせていただくこととなりました。皆さまのご理解とお力添えを得て、与えられた職責を全うしたいと決意しております。

ところで、各大学はそれぞれ独自の建学の精神を有し、またそれぞれに異なる事情や経緯を経て今日に至っており、それぞれが独自の機能をはたしています。それぞれが異なった特色ある機能を持ちそれを強みとすることによって、競争的環境の中にありながらも互いに共存し、さらにそれぞれの機能を提供し合い互いの足らざるところを補い合って各大学が自らの体力を強化していくこともできます。互いに協力し合いながら学生の教育や人材養成にあたり、研究を推進し、社会貢献活動に取り組んでいくことによって、一大学の力だけではなく得ない成果をあげ、発展していくことができます。

本学は浄土真宗の精神を建学の精神とし、また21世

紀の大学像として「共生(ともいき)をめざすグローバル大学」を掲げています。仏教の縁起思想は、「すべての存在は縁(よ)って起こっているものであり、独立自存する実体的なものはない。すべてのものは互いに依存し合っている」ということを教えます。あらゆるものが時間と空間を超えて相互に関係し支え合っていることを自覚することによって、自らの自己中心的なあり方を反省し、感謝しつつ自利利他を願って生きていくことを教えます。共生は「違うものの共生」「異質なものの共生」です。互いの違いを認め合い生かし合って共に生きていくという共生の考え方は、今日の多様な対立や摩擦を内包する多元的社会の中で、新しい共存の枠組みを創り互いに利益を得ることのできる新しい豊かな関係性を創りだそうとするものです。

私も微力ながらこのような関係性の創出に寄与したいと考えています。

みやこ

京カレッジの後期出願を受付けます!

2007年シティーカレッジは京カレッジへ

みやこ

みやこ

市民に開かれた生涯学習プログラム「京カレッジ」は、広く教養を身につける「市民教養講座」、学習の成果を実生活に活かす「資格取得講座」及び「特別コース」、さらには単位取得も可能な「大学講義」にいたる幅広い講座を準備しています。年齢や性別を問わず生涯学習の多様なニーズをカバーする大学のまち・京都ならではのシステムです。

後期開講科目のうち、定員に余裕のあるものについて後期出願を受付けます。期間や申込み方法など、詳しくは下記のとおりです。皆様の出願をお待ちしています。

後期出願受付期間 8月17日(金)～31日(金) *月曜休館

出願書類

- ①出願用紙
- ②卒業証明書(大学講義を受講する場合のみ)
- ③会員証用写真
- ④その他(募集ガイドの「各大学手続一覧」を参照)

出願方法

(財)大学コンソーシアム京都に申し込み
【郵送】 8月30日(木)必着
【持参】 8月29日(水)～31日(金)のみ持参受付を行います。
 受付時間 9:00～17:00(厳守)

後期出願対象科目

8月1日(水)より、キャンパスプラザ京都の掲示板、及び(財)大学コンソーシアム京都のホームページで案内します。

お問い合わせ先

075-353-9140



2007年度インターンシップ・プログラムの出願を受付けました!

2007年5月11日(金)、12日(土)、2007年度のインターンシップ・プログラムの出願を受付けました。夏休みに企業等での実習を行う「ビジネスコース」、行政機関や非営利企業での実習を行う「パブリックコース」、6月から12月まで長期プロジェクト型で実習を行う「プログレスコース」の3つのコースをあわせて、2日間で約1,000名の学生が出願しました。出願した学生は、受付を済ませた後、緊張した面持ちで面接に臨み、約半数が実習を行うことが決定いたしました。実習生は、実習だけでなく、実社会での経験を今後の学生生活に活かすことのできるよう、所属大学の枠を越えたインターカレッジ・ゼミ形式で事前学習・事後学習に取り組む予定です。

● 学生の皆さんへ

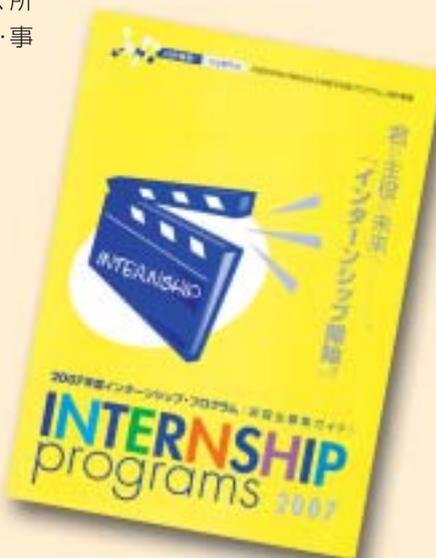
主に短大生や四年制大学1年次生を対象に、1月～2月に実習を行うトライアルコースについては、10月に改めて募集を行う予定です。詳しくは本財団のインターンシップ事業推進室までお問い合わせください。

お問い合わせ先 075-353-9106

● 企業・団体の皆さんへ

新たに受入れを希望される企業・団体などがございましたら、本財団のインターンシップ事業推進室までお問い合わせください。

お問い合わせ先 075-353-9106



PROJECT REPORT

事業報告

教育事業部

TOPICS

■単位互換制度 (文部科学省「平成16年度 特色ある大学教育支援プログラム」採択)

単位互換制度とは、他大学が提供する正規科目を受講することができ、それが自大学で単位認定されるものです。学生の幅広い関心と興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学などの幅広い科目が10テーマに分類され提供されています。今年度は、京都地域を中心に46大学・短期大学が単位互換包括協定を締結しており、500科目以上が単位互換科目として提供されています。

◆提供科目・履修者数等

年度	包括協定大学数	提供科目数	出願者数	履修者数
2007年度(春)	46大学	535科目	9,438名	7,907名

◆提供科目分類内訳

年度	ブラザ科目	オンキャンパス科目	合計
2007年度提供科目数	124科目	411科目	535科目

■生涯学習事業(京カレッジ)

1997年度より京都市と連携し、社会人の学習ニーズの高度化に応える生涯学習事業として「シティーカレッジ」を実施してきました。これは、社会人の方が、各大学・短期大学より提供された大学の講座を受講することができる制度です。事業開始から11年目を迎え、高度化と多様化を遂げている生涯学習を全般的にサポートすべく、さらに講座を充実させて「京(みやこ)カレッジ」と名称を変更し実施しています。

◆科目提供大学数、提供科目数、受講科目数、出願者数等

年度	科目提供大学・機関数	提供科目数	受講科目数	出願者数	
				<延べ>	<実数>
2007年度	39大学・機関	442科目	215科目	875名	410名

◆テーマ別出願者数(延べ数)

テーマ	提供科目数	出願者数	テーマ	提供科目数	出願者数
A 京都を探る	24科目	129名	H 自然に学ぶ	27科目	13名
B 歴史と文化に触れる	51科目	94名	I 環境とくらしを考える	22科目	22名
C 美の世界に触れる	21科目	12名	J 現代社会を知る・考える	122科目	64名
D 文学の世界に触れる	9科目	7名	K 市民教養講座	77科目	425名
E ことばの魅力を	16科目	19名	L 資格取得講座	28科目	4名
F いのちと人間を考える	39科目	60名	M 特別コース	3科目	25名
G 教育とは…何だろう	3科目	1名	合計	442科目	875名

■インターンシップ事業

(文部科学省「平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム」採択)

実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性・独創性のある人材育成を目的とした教育プログラムとして、1998年に全国に先駆けてインターンシップを開始しました。今年は1,009名が出願し、面接・選考を経て596名が実習に参加する予定です。

◆出願受付日時

5月11日(金) 14:00~20:00
5月12日(土) 13:00~19:00



高大連携事業部

TOPICS

■高大連携事業(京都の大学『学び』フォーラム)

- 大学コンソーシアム京都に加盟する、京都地域の全ての国公立大学・短期大学50校の特色ある「模擬授業」や「相談ブース」等を通じて、高校生や保護者、高校の先生方に対して広く「京都の学び」を紹介する高大連携事業です。参加生徒の興味ある学問分野の発見や学習意欲の向上、進学目的の明確化など参加生徒自身が将来のキャリアデザインを考える貴重な機会となっています。



◆京滋会場開催

- 【日時】6月17日(日)
- 【場所】キャンパスプラザ京都(京都駅前)
- 【参加者】503名(実数)
- 学びフォーラム企画
(個別相談コーナー・模擬講義・体験型講座・保護者対象講座・生活サポートコーナー・海外留学相談コーナー **新規**)
- 京滋短大協会共催企画 **新規**
(模擬講義・短大入門セミナー・体験コーナー)

リエゾン共同研究事業部

TOPICS

■リエゾン事業

- 2002年度に、社会と大学とのインターフェイス機能を強化するため財団内組織として「リエゾン・オフィス」を設置しました。特に京都地域における教育・研究交流の推進・企画、外部資金導入のアンテナとして情報収集・交流・提案等を行っています。またリエゾン担当者連絡会議を開催して、加盟校のリエゾン担当者との連携の強化を図っています。



◆大学地域連携モデル創造支援事業

- 2006年度助成事業報告会及び2007年度募集説明会を開催しました。
- 【日時】4月27日(金) 14:00~16:00
- 【場所】キャンパスプラザ京都2階ホール
1) 2006年度助成事業報告
2) 2007年度募集説明

◆「ごみ減量のためのエコバック」デザインコンテスト

- 「全労済京都府本部・京都労済創立50周年」記念事業として、「ごみ減量のためのエコバック」のデザインを京都の全大学生を対象に募集し、優秀作品のうち2作品について製品化しました。
- 【募集期間】2006年11月1日~12月15日
- 【応募件数】80件
- 【表彰】最優秀賞1作品、優秀賞2作品、佳作(各種特別賞)6作品
- 【製品化】2点



■共同研究事業

- 「京都学」「21世紀学」「都市政策」の3分野において共同研究推進、研究資源の公開、研究成果の発表、研究支援事務体制の構築、若手研究者の育成などを行っています。また、地域社会や市民への知の還元・情報発信を行う目的で「ブラザカレッジ講座」の開講や「京都アカデミア叢書」の発行など様々な取り組みを行っています。

◆単位互換コーディネート科目の企画・提供(2007年度)

- ①新・京都学総論(花園大学開講科目:4/14~7/21 全14回)
- ②都市政策概論(京都橘大学開講科目:9/25~1/15 全15回)

◆ブラザカレッジの企画・講座実施

- ブラザカレッジ京都学講座「みやこの遊び」
- 第1回:5月13日(日) お座敷遊び一昔の祇園、今の祇園ー 高安美三子氏(祇園 吉うた女将)
- 第2回:5月20日(日) かるたー王朝風雅び歌がるたの世界ー 鈴山葵氏(日本かるた院本院理事長)
- 第3回:6月10日(日) 聞香ー志野流香道を中心にしてー 熊谷京子氏(志野流香道教授)



高等教育研究事業

厳しい高等教育情勢の下で、個別大学が個性的な大学創造を推進するための共通の基盤整理を行うために、京都高等教育研究センター事業、FD事業、SD事業を行っています。

◆京都高等教育研究センター、プロジェクト研究の推進

- ・高等教育実態研究、FD研究、連携型教育システム研究、SD研究の4分野で7つのプロジェクト研究を推進
- ・プロジェクト研究公開研究会の開催
「キャリア形成と大学の教育力」(3/30)
「21世紀型教養と自大学の取り組み」(6/26)
「国際学術文化都市・京都の実現にむけて」(7/5)
- ・2006年度プロジェクト研究報告会(6/2)



◆高等教育政策研究セミナー

- ・「FDの義務化に向けて」(1/27)
- ・「日本の高等教育の行方」(3/24)

◆FDフォーラム

- ・「学生が伸びる大学教育」(3/3、3/4)

◆職員共同研修事業

- ・ビジネスマナー研修:3/22、3/29、3/30
- ・問題解決力向上研修:6/15

◆アドミニストレータ研修事業

- ・2007年度受講生(26名・16大学)が受講、5/12～9/9

留学支援、国際交流事業

京都で学ぶ留学生に対する産学公地域連携型の支援事業および外国人留学生、外国人研究者、大学関係者相互の交流事業を実施しています。

◆京都地域留学生住宅保証機構 (2006年度は295件の機関保証を実施)

◆京都迎賓館訪問の催し(1/23、1/24)

◆国際交流事業Meet in Kyoto(6/29)



企画事業

財団全体の将来構想の検討および「大学のまち・京都」推進のための検討を行っています。

◆第3回大学のまち京都推進会議(3/28)

◆第1回大学政策委員会(6/20)

京都学生祭典

◆京都学生祭典「春祭り」

10月6日(土)JR京都駅ビル、7日(日)平安神宮・岡崎周辺において、第5回京都学生祭典(主催:京都学生祭典実行委員会)が開催されます。これに先立ち、5月19日(土)に京都学生祭典「春祭り」がJR京都駅ビル、ポルタプラザで開催されました。秋の本番に向けて、京都学生祭典をより多くの人にとって知られたいと、京都学生祭典オリジナルおどり「京炎 そでふれ!」の披露や音楽コンテストの優秀者ライブなど、ヘアアレンジ、ネイルアートや似顔絵などの縁日ブースに3000人近い方々の来場がありました。



大学コンソーシアム京都スポーツクラブ事業

◆大学コンソーシアム京都スポーツクラブ

地域の児童・生徒さんを対象に加盟大学・短期大学においてスポーツ教室を開催しています。親子サッカー教室から日頃体験する機会の少ない親子レガッタ(ボート教室)、「岩登り教室」、子ども駅伝教室など、さまざまな種目を開講し大学生が熱心に指導します。今年も15の教室を開催します。

◆「スポーツとサプリメント」授業公開シンポジウムを開催しました。

6月2日(土)に『ダイエットについて～健康的にやせるには?～』をテーマに授業公開シンポジウムを開催しました。当日は、医学・栄養学からの講演と元ラグビー日本代表の大八木淳史さん、元シンクロナイズドスミシング日本代表の奥野史子さんをパネリストにむかえ、同志社大学 横山勝彦 教授のコーディネートのもとパネルディスカッションが行われ、多くの受講者で賑わいました。



【日 時】6月2日(土)13:30～16:30

【場 所】キャンパスプラザ京都5階第1講義室

【参加数】145名 [協賛] 大塚製薬株式会社

◆シンポジウム◆

【講 師】佐藤 務(こもん会 稲毛病院、整形外科・健康支援科部長)
小椋真理(管理栄養士・スポーツプログラマー)

【パネリスト】奥野史子(スポーツコメンテーター、元シンクロナイズド・スミシング日本代表、同志社大学大学院総合政策科学研究科修了)

大八木淳史(元ラグビー日本代表、同志社大学大学院総合政策科学研究科在籍)

【コーディネーター】横山勝彦(同志社大学法学部教授)

防火訓練と救急救命講習の実施

④ キャンパスプラザ京都

良く晴れた6月4日に、下京消防署の指導のもと朝9時から財団の職員、受付派遣社員、京都市職員など総勢約50名が参加して、キャンパスプラザ2階ホールにて、救急救命講習を3時間、施設内において、防火訓練を1時間実施しました。

救急救命講習では、CPR(心肺蘇生法)、AED(自動体外式除細動器)の操作訓練、防火訓練では、消火器の使い方、避難はしごの設置箇所の確認と操作方法、消火栓の使い方など消防署員の説明を真剣に聞き入りました。

中でも、救急救命講習会のCPR(心肺蘇生法)では、神妙な面持ちで訓練用的人形を取り囲み、講師による心臓マッサージ、人工呼吸の動作を真剣に見入った後、それぞれ一人ひとりがCPR、AED(自動体外式除細動器)の操作、訓練を行いました。

この講習を受けた参加者の一人は、「見て頭で学習することと実地訓練の差を、改めて思い知りました。目の前で倒れた人を前に、後ずさりせず、まず一歩前に踏み出す勇気を得た良い機会になりました」という感想がありました。

参加者全員が気持ちいい汗と緊張感を共有した一日でした。



2007年度「共同研究プロジェクト」を採択

京都に関わる学びを普遍的視点から見直し、京都創生に資する学際的研究を対象とする「京都学術共同研究機構 共同研究プロジェクト」を、昨年12月から2ヶ月間募集を行ったところ合計9件の応募があり、厳正な審査の結果、下記の2件が2007年度の「共同研究プロジェクト」として採択されました。

特定課題 京都を文化芸術都市として創生するための方策について

研究代表者 (プロジェクトリーダー)	井村 直恵(京都産業大学経営学部准教授)
研究名称	「京都市らしさ」発信拠点としての商店街の実証研究
研究概要	常に時代に即して変貌を遂げてきた錦小路の近代・現代における発展を振り返り、市場や商店街が京都の文化・経済・芸術の発展に寄与してきた背景を明らかにするとともに、「京都市らしい」街づくりを通じて文化芸術発信地として商店街を創生する方策について検討する。

自由課題 宗教、文化、芸術、ものづくりなどの研究分野に該当する複合領域研究

研究代表者 (プロジェクトリーダー)	高田 光雄(京都大学大学院工学研究科教授)
研究名称	「外国人マイノリティの定住過程からみた持続可能な多文化共生地域コミュニティに関する研究—京都市南区東九条地区を対象として—」
研究概要	京都市南区東九条地区を対象地として、コリアンの定住過程の考察を通じ、外国人集住地区を地域社会の構成要素として捉え、東九条地区がもっている地域的特性を明らかにし、東九条地区を異文化交流の拠点とする。持続可能な多文化共生地域コミュニティ形成のための資源的価値を明らかにする。

京都から発信する都市政策

～第3回政策系大学・大学院研究交流大会～

2005年度から本財団に設置された京都学術共同研究機構「都市政策研究推進部会」の事業一環として、「京都から発信する都市政策」を開催しています。

「京都から発信する都市政策」は、学生・院生が京都地域における都市政策に関する研究発表を行うことで互いの交流を深め、研究の深化を計るとともに、研究成果を京都地域の課題解決へつなぐ機会になっています。

今回で第3回目となる「京都から発信する都市政策」では、政策系大学・大学院のみならず、多数の大学・大学院の学生・院生から「都市政策」に関する研究が発表されます。さらに、学生・院生のみならず市民の方との交流の機会にもしたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

今年度は、2007年12月9日(日)に開催します。
詳細は6月末より本財団ホームページに掲載しますのでご覧下さい。

予告





プラザカレッジのご案内

2007 プラザカレッジ京都学講座

みやこの遊び 開講中

京都は、794年平安京の成立以来様々な文化や芸術が形成されています。

平安時代より貴族から武家や公家、庶民層の間で様々な遊芸が創造され、伝承されています。今年は、様々な「遊び」について、「遊び方」の解説だけでなく、「遊び」の持つ歴史や文化、背景について深く理解できる講座をお届けしています。



定員に若干余裕がありますので、当日申込にて受講できます。この機会には是非ご来場ください。



第1回	5月13日(日)	お座敷遊び - 昔の祇園、今の祇園 - 高安 美三子氏(祇園 吉うた女将)
第2回	5月20日(日)	かるた - 王朝風雅び歌がるたの世界 - 鈴山 葵氏(日本かるた院本院理事長)
第3回	6月10日(日)	鬮香 - 志野流香道を中心にして - 熊谷 京子氏(志野流香道教授)
第4回	7月 8日(日)	鬮茶 - その様々な展開 - 小川 後楽氏(小川流煎茶六世家元)
第5回	7月15日(日)	町かどの藝能 - 遊びと祈りの心 - 河田 洋志氏(おさ田塾(演劇塾長田学舎))
第6回	7月22日(日)	掘りだされた遊び - ミニチュア玩具を中心に - 原山 充志氏(京都市考古資料館主任)
第7回	7月29日(日)	管絃 - 貴族の必修教養でもあった音楽遊び - 久保田敏子氏(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター教授)
第8回	8月 5日(日)	曲水 - 王朝人のガーデンパーティー - 鳥羽 重宏氏(城南宮 宮司)
第9回	8月12日(日)	蹴鞠 - 『源氏物語』とけまり - 新木 直人氏(下鴨神社 宮司)
第10回	8月26日(日)	座敷音楽としての地歌 - 遊びながらの腕磨き - 久保田敏子氏(京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター教授)



第1回
お座敷遊び - 昔の祇園、今の祇園 -
高安 美三子氏



第2回
かるた - 王朝風雅び歌がるたの世界 -
鈴山 葵氏



京都アカデミア叢書の紹介



「古今和歌集」編纂千百年 記念出版
「新古今和歌集」編纂八百年

「歌のこころ ひとの心」

プラザカレッジ京都学講座講演集

当研究機構の成果を広く社会に還元するために、「京都アカデミア叢書」を刊行しています。このたび研究者・歌人ら第一人者たちが、京都を舞台に語る和歌のエッセンスを載せた「叢書2号」ができましたのでご紹介します。

体 裁 A5版 260頁
定 価 1,400円(税込)
販売場所 (財)大学コンソーシアム京都
1F受付で販売。

京都新聞開発(株) < 電話またはFAXで受付 >
市内大型書店でもご購入できます。

Information

近日開催予定の行事・イベント

詳しくは、財団法人 大学コンソーシアム京都 (<http://www.consortium.or.jp>) を参照してください。

「京都の大学「学び」フォーラム2007」開催概要

日時	場所	会場名	ブース開設時間
7月 8日(日)	名古屋	吹上ホール(吹上駅)	11:00~16:00
7月14日(土)	東京	日本武道館(九段下駅)	10:00~16:00
7月21日(土)	大阪	天満研修センター(天満駅)	9:30~15:00

※名古屋・東京会場については、ライオン企画「大学フェア」に特別参加

第1回FDセミナー

テーマ FDのリーダーになるために

～FD義務化からの新たな出発～

開催日 2007年7月14日(土) 13:40~16:40

会場 キャンパスプラザ京都 5階 第1講義室

報告者 佐藤 浩章 氏(愛媛大学 教育・学生支援機構 准教授)
圓月 勝博 氏(同志社大学 教務部長)

FD義務化の流れの中で、各大学・短期大学においてFD活動が焦眉の課題となっており、京都高等教育研究センターFD研究会の研究成果の積極的なフィードバックを行うことを目的に、FDセミナーを開催します。多くの関係者のご参加をお待ちしています。

マネジメントマインド・基礎

研修実施日 2007年8月3日(金)

募集期間 2007年7月3日(火) 締切(先着順で受付)

研修名 マネジメントの基本

ニーズの多様化や価値観・職業観の多様化に伴い、管理・監督者だけでなく中堅職員にとっては、自身の職責やマネジメントの基本に基づき、職場においてどのように行動していくのか、また如何に対人影響力を発揮しながら部下指導および育成を行い、組織力強化につなげていくかを自律的に考え、実践していくことが重要となってきます。

本研修では、部下や後輩を持つ職員を対象に「基本的なマネジメントの着実な実践・定着を促進する」ことをねらいとして開催いたします。

◆環境変化とマネジメント

◆管理(マネジメント)の基本

1. 管理の役割
2. 管理とは何か
3. 効果的な業務の割り当て
4. 組織マインドの重要性

◆人を動かす(リーダーシップとは?)

ミーティング・マネジメント

研修実施日 2007年8月9日(木)

募集期間 2007年7月3日(火) 締切(先着順で受付)

研修名 ミーティング・マネジメント研修

業務を遂行するにあたり、意思決定等を行うために開催する会議に費やす時間は、驚くほど多いのではないのでしょうか。しかし、その割に会議の実効性や効率が高いと感じられることは稀ではありませんか?

会議には「効率の高い会議」と「効率の低い会議」の2種類しかありませんが、その違いが生まれる違いは、“会議を効率的に運営するスキルを習得した者”が参加しているか否かであり、そのスキルを一人でも多くの職員が習得することが出来れば、会議を活性化し、効率を高めることが可能であります。

本研修では、建設的でない会議や非効率な会議を学内より一掃するだけでなく、論理的かつ明快で説得力有る話し方の習得や会議の進行方法や結論をまとめるスキルの習得、意見がまとまらない原因を見つけた分析スキルの習得等を目的に、本研修を開催いたします。

◆ミーティングの基礎

◆発言力向上トレーニング

◆ミーティングを成功させる発言のルール

◆ミーティング・マネジメント コアスキル

Campus Scene

京都短期大学

京都短期大学は、緑豊かな自然を背景に、創造豊かな教養教育、社会への対応力を育む教育、栄養士、介護福祉士といった資格を取得する教育を、澄んだ空気、青い空、緑の木々に囲まれたすばらしい環境でのびのびと学んでいます。(表紙は、2000年に竣工したメディアセンターで、友人との談笑風景の一コマです。)



交渉術

研修実施日 2007年9月4日(火)

募集期間 2007年7月3日(火) 締切(先着順で受付)

研修名 対人アプローチ術獲得研修

急激に変化する高等教育情勢の中、これからの大学運営において、組織内や部署内の人間関係を良くすることだけでなく、部下や後輩を指導・育成し、チームワークを形成・活性化させることは、業務を遂行するためのマネジメントにおいて非常に重要なことです。また、新たな事業等を提案する際、提案内容等を分かりやすく説明した後、大学の事業として実施するため、上司や執行部と折衝する機会もあります。

そこで本研修は、部下や後輩を持つ勤続5年以上の職員の方を対象に、部下・後輩指導能力の向上を目指すと同時に、執行部やステークホルダー等との対人対応力向上を目的として、開催いたします。

◆コミュニケーションの問題の整理

1. 相手の分析
2. 自分の苦手意識の分析
3. 相手に対する自分のアプローチ方法の検証

◆対人分析力のアップ

1. 自己分析
2. 他者分析
3. ケーススタディ

◆交渉戦術(理解編)

対人アプローチ(交渉力)を高めていく上で、必要な実践的スキルの習得(例: サンドウィッチ戦術/サラミ戦術/ロシア戦線戦術 等)

◆交渉戦術(演習編)

コミュニケーション・自己表現

研修実施日 2007年9月7日(金)

募集期間 2007年7月3日(火) 締切(先着順で受付)

研修名 コミュニケーション・自己表現研修

相手にとって感じの良い話し方、豊かな会話、創造的な議論は、どのようなことに注意すればよいのでしょうか。自分の主張や言いたいことなど、自分を表現するにはどのようにすればよいのでしょうか。また、会議等において、円滑なコミュニケーションを図るにはどのようにすればよいのでしょうか。

大学を取り巻く環境が激変している今日、大学窓口における学生対応のみならず、大学において教員や職員等との会話や議論において、円滑なコミュニケーションと共に相手に自分の主義・主張を行い、自分を相手に理解してもらうことは重要な要素となってきます。本研修においては、自らの行動やコミュニケーション能力の分析を行うと同時に、コミュニケーションの基本を改めて確認し、自分を表現する方法や、好印象を与えるための方法、またコミュニケーションのスキルについて習得することを目的とします。

◆行動分析

1. 自らの行動パターンの特徴を知り、対人折衝能力を高める。
2. コミュニケーションの誤解
3. 現在のコミュニケーション能力分析
4. コミュニケーション力の発展

◆コミュニケーションの基本

1. 身体的表現
2. 外的要因

◆好印象を与える自己紹介

1. 自己表現チェック
2. 感想の伝達

◆コミュニケーションの技法

1. ストレートトーク
2. プレーンストーミング
3. コメントの出し方
4. 聴き方と質問の仕方

第5回SD(スタッフディベロップメント)フォーラム開催のご案内

テーマ 大学運営におけるリーダーシップと大学改革

(午前に基調講演、午後に分野別の6分科会を開催)

開催日 2007年10月14日(日) 10:00~17:30

会場 キャンパスプラザ京都

大学コンソーシアム京都では、大学マネジメント力量の向上、大学アドミニストレータ人材の育成を目指し、全国の大学職員の研修・交流の場として「SDフォーラム」を開催しています。今年度のSDフォーラムを下記のとおり開催いたしますので、多くの関係者の皆様のご参加をお待ちしています。

※詳細は、財団ホームページ(<http://www.consortium.or.jp/>)でご確認ください。